

幼児教育連携促進研修会に参加して

少し前になりますが、丹波教育事務所主催の幼児教育連携促進研修会に参加してきました。この研修会の目的は2つです。1つ目は、幼稚園・保育所・認定こども園の改定要領に示されている幼児期に育みたい資質や能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について各園の先生方が学びを深めること。2つ目は幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る取組の交流から自校園の取組に活かすことです。

会の中で実践報告いただいた原園長のお話で印象深かったのは、園では基本的習慣の自立に向けて力を入れてきたと思っていたが、1年生の先生の「忘れ物が多くて・・・。朝ごはんが・・・。」などの声を聞いて、『基本的な生活習慣の自立って何だろう』と園の職員で再度考えられたそうです。そして、「生活習慣だけでなく園での活動を子どもたちが主体的に自発的に行い、楽しめているかもう一度子どもたちの姿からみていこう」と話し合われたとのことでした。例えばトイレを自分でできるだけでなく、次は〇〇するから今のうちにトイレに行っておこうとする、そうした子どもの姿をしっかりと見取ることで子どもたちの主体性や自発性を培おうとしているとのことでした。要領の中でも子どもたちがやってみようと思える環境（物的な環境だけでなく先生や友だちなどのかかわり）をつくるのが重要とされていてそれを実践されているのだと感じました。

後半のグループ協議では、丹波管内の幼稚園・認定こども園の先生方と交流し、改めて子ども園との連携の重要性を感じま

した。また連携は行事や子どもたちの交流による連携だけでなく、職員同士の連携を行っていくことも、これから子ども園地域で小学校統合がすすんでいく市島地域には特に重要となると考えています。

4月に認定こども園に着任挨拶にお伺いした時に「園も連携・交流は大切と考えています。いつでも参観に来てください」とお話しいただき、10月末までに7回、本校職員5名が園での子どもたちの様子を参観に行かせていただきました。

私が園参観で感じたことを2つ紹介します。1つ目は、左の写真のように教室の壁には明日どんなことをするのが紹介してあって、それを楽しみにしている子は、次の日来たらすぐにその活動にとりかかっていますと伺いました。きっとその子は前の日からいろいろ考えていただろう、園に来るのが楽しみだったのだろうと想像しました。

2つ目はいろんな表現活動を取り入れられていることです。上の花の作品は園児の作品です。下は1年生の製作の様子です。楽しんで活動する様子を見て、作品づくり一つをとっても子どもたちの学びは繋がっていると感じました。

